

## 暮らしを支える税

富士川町立増穂中学校3年 今村 果歩

「ありがとう」これが約三年前から、私の税金に対しての気持ちだ。私には現在三歳の障害をもった従弟がいる。母親の胎内では順調に育っていたのだが、生まれるときに呼吸を上手くすることができず、脳に酸素が届かなかった。幸いにも心臓や肺は無事だったが、脳へは大きく影響したため、今でも口から食事をすることもできなければ、話すことも、歩くこともできない。多少は目が見えたり、耳も聞こえたりして、笑うような反応はあるが、よく理解できているのか分からない。でも、私にとってとても大切な存在であることは事実である。

従弟はそのため、胃から直接液体の栄養を点滴で摂ったり、毎日のようにデイケアに通所している。また、急に熱を出したり、入院したりすることも度々ある。相当なお金もかかっているはずだ。私は不思議に思って、そのお金について母に聞いてみた。すると、国が援助をしてくれていると知った。そして、そのお金は税金から成り立っているということも。

私は興味を持って、税金について調べてみた。そしたら、税金には「事業税」や「贈与税」、「住民税」などというものがあり、今まで聞いたことのない税金が数多くあって驚いた。その上、普段気にも留めないところで税金との関わりがあることを学んだ。私は消費税や医療費の援助ぐらいしか身近に感じたことがなかった。しかし、こんなにもたくさんの税金が私たちの暮らしを支え、私のように大切な存在を助けてくれていたことを知り、感謝をするべきだと思った。

三年前、消費税が八%から十%となる「増税」が行われた。これに反対する声も多く、私自身も自分のお金が減ることに対して不満も感じた。だけど、今となっては必要だったことではないかと思う。税金の多くは「社会保障費」というものに使われる。社会保障とは、医療、年金、介護などを指す。つまり、私の従弟もこれによって生活の経済面が支援されているということだ。税金が増えることで不安なこともあるだろう。しかし、税金によって、人々の暮らしを支え、命を救うことができればどんなに嬉しいことだろう。一人ひとりが税金の使い道をしっかり理解することができれば、人々の税金を納めることへの姿勢は前向きに変わってくるのではないかと思う。

私たちが当たり前生きていくためには、税金が欠かせない。私も大人になっていくうちにもっと多くの税金に触れていこう。そのときには、しっかりと税金の使い道を理解し、建設的に納めたいと思う。医療、障害介護が必要な人も含め、社会全体として人々が暮らしやすいために。